



外出先で地震発生!!

地震の発生が多いことから「地震大国」といわれる日本では、いつ、どこで地震に遭

うかわかりません。とくに奥尻町は、平成5年の「北海道南西沖地震」で、震度6強の烈震以上（推定）を体験していますが、もしもまた外出先で地震が発生したら、奥尻町以外に出かけているときに地震に遭ったら、あ

なたはとっさに対処できませんか？
外出先で地震に遭った場合にどうするか、現時点で考えられる最適な対処法をご紹介しますので、このことについても家族で話し合っておくことが大切です。

街中を歩いているときに

① 落下物から頭を守る

窓ガラスや瓦、看板などの落下物が危険です。

また、都会では、ビルの倒壊や外壁の落下などの危険性もありますので、建物には近づかず、手荷物などで頭を守ってください。

建物から離れ、指定された避難場所や見通しのよい広場などへ避難しましょう。

広い道路があれば、自動車や落下物に気をつけながら道路の中央に寄りましょう。また、ビル内に逃げ込む場



合は、新しく丈夫そうなビルに入り、入口付近で様子を見ましょう。

大きな建物にいるときに

② 塀や壁のそばから離れる
ブロック塀や石壁、電柱、樹木、自動販売機などは崩れたり、倒れたりする危険があります。

③ 緊急避難する場所は

① 落下や転倒物から身を守る
デパートなどの大きな建物の中にいるときは、落下物や

転倒物の危険がいっぱいです。家電製品や大きな家具などの下敷きにならないよう、安

全な場所に移動しましょう。また、ガラス製品や瀬戸物、照明器具、鏡の近くも危険で

すので、柱や壁ぎわに身を寄せ、衣類や荷物で頭を守りましょう。

車を運転しているときに

① 急ブレーキをかけない

急ブレーキは、事故を引き起こす原因になります。

を収集しましょう。車を離れるときは窓を閉め、キーをつけたままにしておきましょう。

徐々に速度を落として止めましょう。

② 左に寄せて停める

緊急車が通れるように道路の真ん中は空けて停車します。

③ キーをつけたままで

揺れがおさまるまでは車外に出ず、ラジオで正確な情報



電車に乗っているときに

① 頭部を守り、姿勢を低く

網棚の荷物の落下や窓ガラスの割れが危険ですので、かばんなどで頭部を守ってください。

う。

② あわてて外にでない

電車が止まっても、あわてて外に出ると危険です。乗務員の指示に従って行動しましょう。

立っている方はつり革や手すりをしっかりつかまりましょ

海辺で
地震発生
!!

揺れを感じたら→すぐに高い所に避難を

日本は有数の「地震大国」で、同時に「津波被害」が非常に多い国でもあります。とくに奥尻町は、平成5年の「北海道南西沖地震」の際

に、最大で23.3メートル(学者によっては29.31メートル)もの巨大津波を体験していましたが、地震とともに、いつでもどこで、どのくらいの規模で津波が発生するかわからず、その可能性は海岸沿いの全国すべての地域にあり、奥尻町

にも一度来たからといって、もう二度と来ないという確証はどこにもないのです。津波被害に遭わない有効な手段はありませんが、考えられる最適な対処法についても家族で話し合っておくことが大切です。



用ラジオなどを留意し、あらかじめ避難路や避難場所の確認をしておくことが大切です。周囲に避難できる高台があれば、鉄筋コンクリートビルの上階に逃げ込むことも有効です。

海底で大きな地震が起きた場合、津波が海岸に押し寄せ

の犠牲者や大きな被害を受けました。

の距離や地形などによって異なりますが、とくに震源からの距離がもっと短ければ、5分以内でも津波が押し寄せることが考えられます。

「地震＝津波」と考えよ

ることがありますが、奥尻島を襲った平成5年の巨大津波は、青苗地区では地震発生から約5分後に、稲穂地区では約3分後に第1波が来襲したものとみられています。

地震発生後の数分間で、いかにすばやく安全な場所に避難できるかどうかで、生死を分けることになったのです。この驚異的な津波の速さは地震の規模、種類、震源から

地震の揺れを感じた場合は「地震があったら津波が来る」、つまり「地震＝津波」と考え、すぐに少しでも高い場所に避難することが一番大切なことなのです。

海辺で揺れを感じたら

奥尻町では、あの大地震や大津波を体験したのは初めてで、まして地震発生から約3〜5分後という驚異的な来襲の速さによって、考える時間、避難する時間さえなく、多く

海水浴や磯遊び、キャンプ、魚釣りなど、海の近くで地震

を感じたり、津波に関する警報などを耳にしたら、急いで

高台に避難してください。

また、海水浴などに出かける際には、津波警報などをすぐにキャッチできるよう携帯

また、津波が一段と大きくなるV字型やU字型の湾の奥は危険で、さらには、津波は河口から逆流して川岸にも押し寄せるので、川辺での水遊びの際にも油断は禁物です。

津波に対する心得

① 強い地震(震度4程度以上)を感じたとき、また、弱い地震であっても長時間ゆっくりとした揺れを感じたときは、直ちに海岸から離れ、急いで安全な場所に避難する

② 地震を感じなくても、津波警報が発表されたときは、直ちに海岸から離れ、急いで安全な場所に避難する

③ 正しい情報をラジオ、テレビ、防災行政無線放送などを通じて入手する

④ 津波注意報でも、海水浴や魚釣りは危険なので行わない

⑤ 津波は繰り返し襲ってくるので、警報や注意報の解除までは気をゆるめない